

●産地の出荷責任者がわかるようにしておいてほしい。個選個販の場合は、市場担当者がその生産者をよく知らないと予約相対に対応しにくい。

等貴重なご意見をいただきました。今回の意見交換会から、今後、花づくりに大切なことは

「産地（生産者またはJA・全農の出荷担当者）と市場（販売担当者）との意志疎通」「小規模でも特色のある花づくり（目指すはニッチトップ産地）」だと思いました。

皆さんの産地では、出荷している市場の担当者とかまめに情報を交換していますか？

会員の活動を紹介

協会の正会員である各地区の生産者団体の中から、JA加賀市花き部会、また協会の若手会員で組織する青年部会の活動を紹介します。

【JA加賀花き部会】

「部会員と関係者が一致団結しウイルスを克服！」

JA加賀花き部会は、県内有数の小ギク産地ですが、平成16年に産地存続をも脅かす「ある問題」が発生しました。

それは、小ギクの草丈が短くなる「キクわい化病」の発生です。「キクわい化病」は、ウイルスによく似たウイルスという病原体の感染で発病し、汁液感染により産地全体に被害が拡大するやっかいな病気です。

しかし、JA加賀花き部会は、「キクわい化病」の撲滅による産地再生に成功しました。その成功の秘訣を紹介します。

<秘訣その1>

部会では、病気の発生が確認された平成16年、JA加賀、加賀農林事務所と連携し、①発病した株の焼却処分、②ハサミの消毒の徹底による被害拡大防止、③発病のみられなかった株を次年度の親株養成のため確保する等適切な対策を講じました。株を思い切って早期に処分したことが、被害の拡大を防止することにつながりました。

<秘訣その2>

翌17年、部会員がウイルスに対する問題意識を持ち、「部会は親株養成」「JAは部会の連絡調整」「加賀農林事務所は技術支援」「県農業総合研究センターはウイルス検定」と役割を分担し、一致団結してウイルスの克服に取

り組みました。その結果、栽培に必要な親株2,500株の増殖に成功しました。

今後も、定期的にウイルス検定を実施しながら、安定した生産を図っていくことにしています。

【青年部会】

【花の即売で“売れ筋”を把握】

10月15日、16日、「石川の農林漁業まつり」が県産業展示館で開催されました。これに併せ、青年部会では、石川県鉢物園芸生産組合や県関係者の協力のもと、恒例の即売会を実施。自ら生産している切り花や花壇苗、鉢物をお客様に直接販売することで、花きの品質に対する評価や人気のある品種や品目、購入しやすい価格帯等を把握しました。一方、お客様は、栽培した生産者本人が販売していることから、管理方法を聞きながら家の環境等に合ったお花を選んでいました。

用意した花はほぼ完売！そして、部会員の親交も深まりました。



青年部会の花の即売会
たくさんのお客様で賑わいました。

花だより

Vol.1

発行日 平成18年3月31日

●発行 石川県花き園芸協会
事務局:石川県農林水産部農畜産課内
金沢市親月1丁目1番地
TEL (076)225-1622
FAX (076)225-1624

ごあいさつ



石川県花き園芸協会 会長
寺本 貢

平成17年6月29日に設立された「石川県花き園芸協会」の初代会長に就任いたしましたJA金沢市花卉部会の寺本と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本会は、県内各地区の花き生産者団体を正会員とし、その活動を支援するとともに、地区組織をこえて広域で取り組むプロジェクト活動、担い手である青年部会の活動に対する支援等に取り組むこととしています。会としての体制を整え船出したものの、暗中模索の航海であり、本県花き園芸を取り巻く状況が厳しさを増す中、その責任の重大さに身の引き締まる思いです。これまでの主な取り組みとしては、本県の主

要な花きであるストックの栽培技術の向上を図るため、初めて栽培ハウスにおいて生育状況等を評価する立毛品評会を実施しました。また、切花葉ボタンの技術の向上と規格格付けの統一を図るため、市場担当者に参加していただき、加賀から能登まで現地検討会を開催しました。

今後も創意工夫を図りながら、できるだけ会員のお役に立つような、また多くの会員に参画していただけるような活動を実施できるように役員一同知恵を出し頑張っていきたいと存じますので、ご参加、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、特別会員である全農石川県本部、JA石川県中央会、賛助会員である金沢総合花き株式会社、株式会社金沢花市場、県関係者の皆様におかれましては、引き続きご協力、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

主な活動内容

第1回石川県花き品評会を開催

加賀から珠洲まで広域で栽培している品目「ストック」を対象に、栽培ハウス単位での品評会を開催しました。品評会といえば、栽培している花きの中で、選りすぐりの切花や切枝、

鉢物、花壇苗を出品してもらい審査する方法が一般的ですが、役員会で検討したところ、「技術力を評価するには、栽培圃場を審査するのが一番！」との意見があり、栽培している畑で審



審査員がストックの栽培ハウスで生育状況等を審査
(フロールすず会員のほ場)

査を行うこととしました。

鳥越地区は開花が早いため10月5日に、その他の地区は11月4日に審査を行いました。両日ともお天気に恵まれ、さわやかな秋晴れのもと、協会役員の西村俊雄さん（JA金沢市砂丘地集出荷場南部フラワー部）、川岸宗明さん（JA金沢市花卉部会）が運転するマイクロバスに審査委員が乗り込み、役員や農協、市町、県の担当者に圃場を案内してもらい、一日がかりで出品圃場をまわりました。審査員は、県農業総合研究センター技術指導部長に審査委員長をお願いし、農業総合研究センター園芸栽培グループ、

金沢総合花き株式会社、株式会社金沢花市場、全農石川県本部、県農畜産課の担当者及び協会の寺本会長の7名で、花のほか生育状況、病害虫の有無、圃場管理の状況で審査しました。

出品は、小松市、白山市、金沢市、珠洲市、野々市町の生産者から24点ありました。後日、審査結果に基づき、審査委員で協議し、最優秀賞1点、優秀賞3点、奨励賞2点を決定しました。

表彰式は、2月24日、県農業総合研究センターにおいて行いました。入賞者の皆さんは下表のとおりです。入賞された皆さん、おめでとうございます！



最優秀賞の石川県知事賞を受賞した
武田秀雄さん（フロールすず）

<入賞者一覧>

賞名	出品品種	入賞者氏名	所属団体名
最優秀賞	石川県知事賞	ホワイト、チェリーカルテット等	武田 秀雄 フロールすず
優秀賞	全農石川県本部運営委員会会長賞	雪波	北 久美子 JA小松市花き部会
	金沢総合花き株式会社社長賞	ホワイト、チェリーカルテット	福田 康浩 野々市町花き生産組合
奨励賞	株式会社金沢花市場社長賞	ブルー・ピンクカルテット	東藤 忠義 手取花卉振興会
	石川県花き園芸協会会長賞	ホワイト・チェリーアイアン	是国 俊夫 フロールすず
		ホワイト、ラプリーカルテット等	西村 光子 JA金沢市砂丘地集出荷場南部フラワー部

(敬称略)

切花葉ボタン現地検討会を開催

10月5日、11月18日の2回にわけて、「切花葉ボタン」の現地検討会を開催しました。「切花葉ボタン」は、西南暖地の競合産地に比べ着色が早く、色上がりも美しいことから市場の評価も高く、ここ数年、栽培が増加しています。検討会には、会員をはじめ農協、全農、市町、県関係者等総勢70人が参加しました。特に、11月18日は約60人が参加し、会員相互の親交も図られたようです。巡回したのは、JA加賀、JA松任、JAはくい、JA能登わかば及び県農業総合研究センターの栽培ほ場8カ所で、品種や病害虫防除、葉かき等の栽培技術について研修

しました。また、金沢総合花き(株)、(株)なにわ花いちば、全農石川県本部の担当者と出荷規格についても協議し活発に意見が交わされました。



切花葉ボタン現地検討会
(羽咋郡市切花研究会員のほ場)

県内、関西市場担当者との意見交換会を開催

2月24日、県農業総合研究センターにおいて、会員をはじめ農協、全農、市町、県関係者等約70名が参加し、協会の賛助会員である金沢総合花き(株)、(株)金沢花市場のほか、(株)なにわ花いちばの担当者をお招きし意見交換会を開催しました。金沢総合花き(株)から畑下常務、(株)金沢花市場から村松社長、(株)なにわ花いちばから坂口本部長に出席していただきました。

最初に、3人の方から県産花きに対する評価や産地への要望等について10分程度お話をさせていただきました。その後、生産者との意見交換を行いました。



市場担当者との意見交換会

市場からは、

- 西南団地に比べ早く着色し高品質生産が可能な「切り花葉ボタン」のように石川の気候風土にあった花きの栽培に力を入れてほしい。
- 石川県は促成栽培ではなく、季節を少し遅らせる抑制栽培のほうが向いているのでは。
- 石川県の花は、品質は「金メダル」、出荷数量は「下位」。出荷量を増やして「1億円産地」をめざそう。掘り起こせばいい産地になる。できれば個人より組織で生産してほしい。
- 彼岸、盆、年末の「もの日」も普段も格差をつけない売り方になってきている。周年生産が得策
- キク、花木は石川県の花きの両輪であり、作りつけてほしい。
- 花屋の好みの色やボリュームは地域により異なるので、出荷する市場から情報を収集し傾向を把握しておくことが大切
- ターゲットをしぼった生産販売を。
- 業務需要が増加している中で、産地の出荷担当者は、出荷量をできるだけ早くまとめて連絡する努力を。そうすれば、ネット、相対販売が可能となる。